

小八木村東遺跡 2

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2024

高崎市教育委員会
Honest 企画株式会社
有限会社毛野考古学研究所

小八木村東遺跡 2

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2024

高崎市教育委員会
Honest 企画株式会社
有限会社毛野考古学研究所

例 言

- 1 本書は、宅地造成工事に伴う小八木村東遺跡第2次調査の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本遺跡は、群馬県高崎市小八木町字村東1424番1、1425番2、1429番1に所在している。
- 3 本調査は、Honest企画株式会社・高崎市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
- 4 発掘調査から整理調査を経て本書刊行に至る経費は、石関威徳様に負担して頂いた。
- 5 発掘調査～整理調査は、宮本久子・松本喜臣（有限会社毛野考古学研究所）が担当し、遺構測量および空撮は亀田浩子・田村貴広（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
- 6 発掘調査は令和6年3月1日～3月19日、整理調査は令和6年3月20日～令和6年8月30日の期間で実施した。
- 7 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「887」である。
- 8 本書の執筆については、Iを滝沢匡（高崎市教育委員会）、それ以外の執筆を松本が、編集を宮本・松本が行った。
- 9 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
- 10 発掘調査・整理調査に携わった方々は以下の通りである。（順不同・敬称略）

【発掘調査】

石原修 黒澤進 黒田有彦 関通世 堀口満夫

【整理調査】

金澤明佳 武士久美子 山口昌子

- 11 調査にあたっては、地元住民の皆様にご協力頂いた。記して感謝申し上げます。

凡 例

- 1 挿図中の北方位は座標北を、断面水準標高は海拔標高を示す。座標値は世界測地系に基づいている。
- 2 遺構覆土および土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修2006）に従っている。
- 3 本書掲載の第1図は高崎市発行「高崎市都市計画基本図」1/2,500を、第2図は国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小にしたものを、第3図は国土地理院発行『高崎』1/25,000を編集して使用した。
- 4 本文中の数値表記において〔 〕は残存値を示す。
- 5 本書ではテフラ（火山噴出物）の呼称として次の略号を用いる。

As-A：浅間A軽石（1783年）

As-B：浅間B軽石（1108年）

Hr-FP：榛名ニッ岳伊香保テフラ（6世紀中頃）

Hr-FA：榛名ニッ岳渋川テフラ（6世紀初頭）

As-C：浅間C軽石（3世紀後半）

As-YP：浅間板鼻黄色軽石（約1.5～1.65万年前）

目 次

例言・凡例・目次	
I 調査に至る経緯	1
II 地理的・歴史的環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	4
1 調査の方法	4
2 調査の経過	4
IV 基本層序	5
V 検出された遺構と遺物	6
1 概要	6
2 水田跡	6
3 土坑	10
VI まとめ	11
写真図版	
抄録・奥付	

図版目次

第1図 調査区域図	1
第2図 遺跡の位置	2
第3図 周辺の遺跡	3
第4図 標準堆積土層断面	5
第5図 全体図	6
第6図 As-B層下水田跡(1)	8
第7図 As-B層下水田跡(2)	9
第8図 As-B層下水田跡(3)	10
第9図 土坑	11
第10図 微地形図	12
第11図 地形図	12

写真図版目次

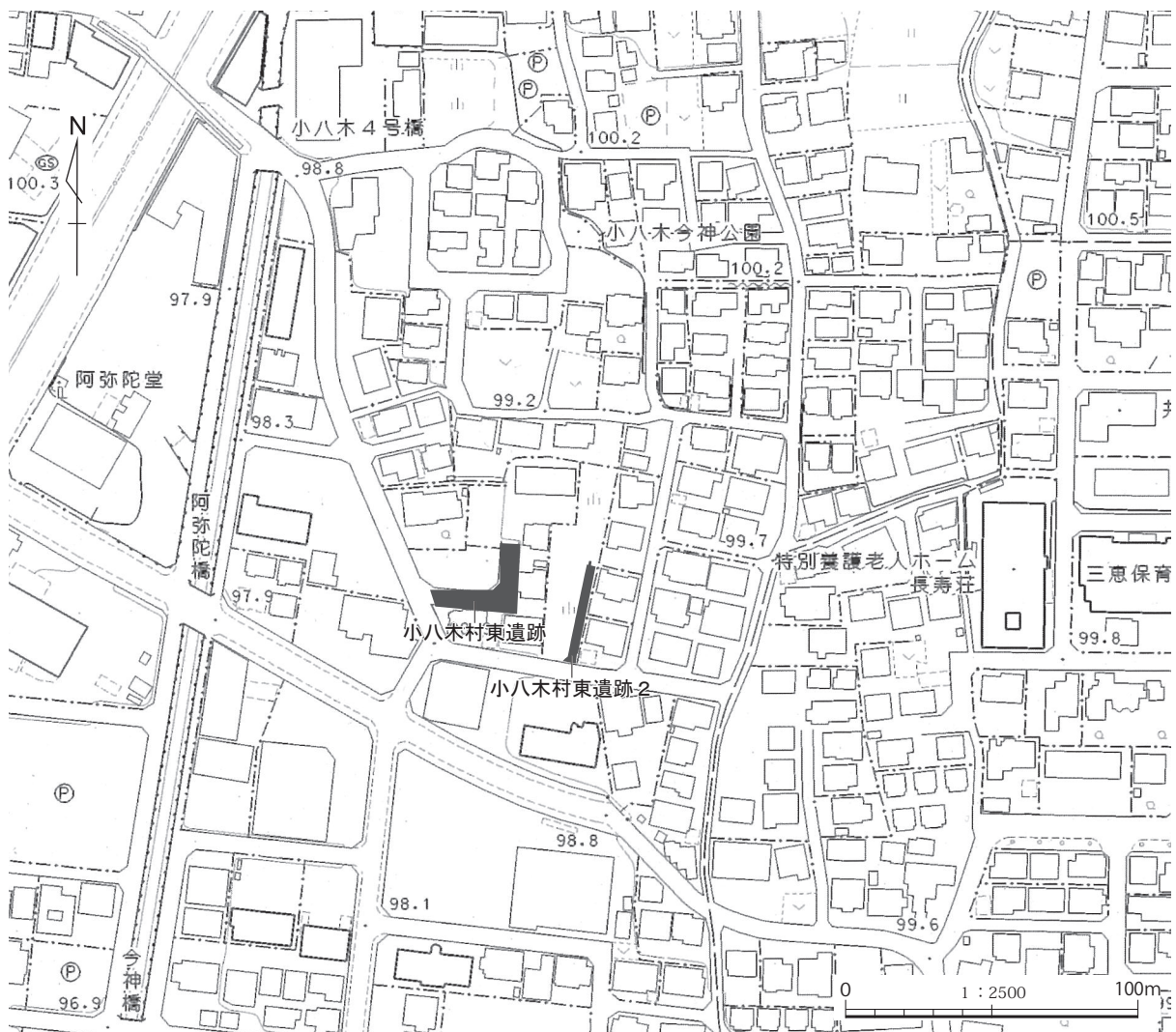
写真図版1 調査区遠景(北から)	7号畦畔(南から)
調査区全景(左下が北)	7号畦畔 土層断面 F-F'(南から)
写真図版2 調査区全景(北から)	8号畦畔・水口(東から)
水田跡区画3~5(北西から)	8号畦畔 土層断面 G-G'(北から)
写真図版3 1号畦畔(東から)	区画2(北から)
1号畦畔 土層断面 L-L'(東から)	区画3(北から)
2号畦畔(南東から)	写真図版5 区画4(北から)
2号畦畔 土層断面 K-K'(東から)	区画5(北から)
3号畦畔(南東から)	区画6(北から)
3号畦畔 土層断面 J-J'(東から)	区画7(北から)
4号畦畔(南東から)	SK-1 完掘(南から)
4号畦畔 土層断面 I-I'(東から)	SK-2 完掘(南から)
写真図版4 5・6号畦畔(東から)	SK-3 完掘(西から)
6号畦畔 土層断面 H-H'(東から)	基本層序 トレンチA(東から)

I 調査に至る経緯

令和5年10月中旬、事業者から高崎市小八木町において計画している宅地造成工事に先立ち、埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である井野10-1遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法（以下「法」とする）第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和5年11月2日、法第93条第1項の規定による届出と、埋蔵文化財確認調査依頼書が提出され、令和5年12月12日に確認調査を実施した。その結果、古代の水田遺構を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については小八木村東遺跡第2次調査とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和6年1月29日に事業者：Honest企画株式会社・民間調査機関：有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



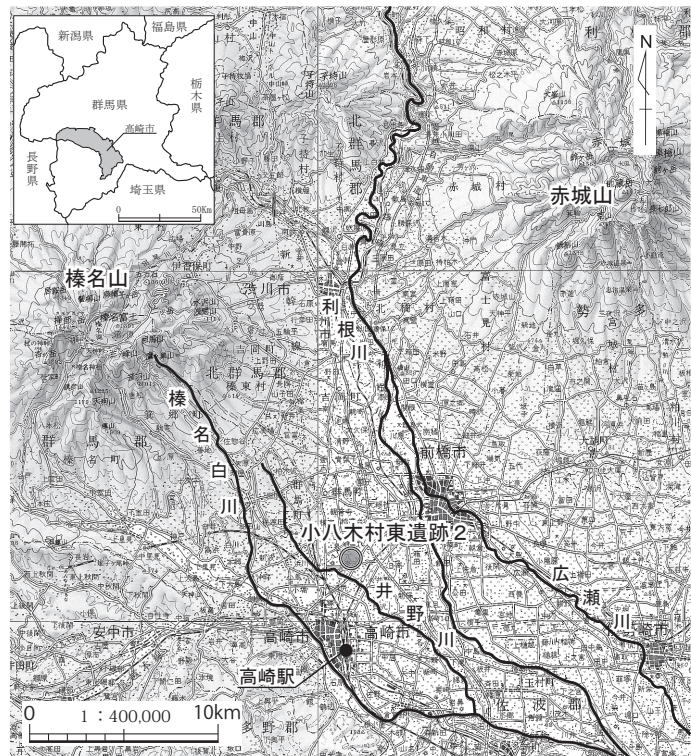
第1図 調査区域図

Ⅱ 地理的・歴史的環境

1 地理的環境 (第2図)

高崎市の北部には榛名山の山体崩落に伴う陣場岩屑なだれを起源とする相馬ヶ原扇状地が形成されており、その南側には浅間山の山体崩落に伴う応桑岩屑なだれによる前橋泥流層を基盤とする前橋台地が形成されている。前橋台地と赤城山の南斜面との間には細長い低地が広がっており、この低地の中を広瀬川が流れていることから広瀬川低地帯と呼称されている。なお、現在の利根川は前橋台地上を南東流しているが、かつては広瀬川低地帯上を流れていたとされている。それに加え、陣場岩屑なだれが堆積する以前は利根川が現在の榛名白川や井野川を流れていたと考えられている(早田 1990)。

本遺跡は相馬ヶ原扇状地と前橋台地の境界付近に位置する。遺跡地の現在の標高は約 99 m であり、南側には井野川が南東流する。なお、明治時代前期の迅速測図によると本遺跡地には水田が広がっていたことがわかる。しかし現況では市街地化が進んでおり、自然地形は失われつつある。



第2図 遺跡の位置

2 歴史的環境 (第3図)

ここでは本遺跡(1)周辺の遺跡について時代毎に概観することとする。

旧石器時代

高崎市内において旧石器時代の遺跡の調査事例は少ないが、本遺跡の周辺に位置する雨壺遺跡(5)では平安時代の住居の覆土中より木葉形の尖頭器が出土している。また融通寺遺跡(39)ではAs-YPの上層のローム層最上部から柳葉形の尖頭器が断面採集されている。

縄文時代

草創期～前期にかけての調査事例は少ないが、熊野堂遺跡(4)では多縄文系の土器が出土しているほか、諸磯b式期の竪穴建物が検出されている。中期～後期にかけては雨壺遺跡、大八木箱田池遺跡(7)、正観寺遺跡群(15)、井野高縄遺跡2(22)において竪穴建物や遺物の出土がみられる。

弥生時代

集落跡は西浦北遺跡(2)、西浦南遺跡(3)、熊野堂遺跡、雨壺遺跡、諸口遺跡(8)、大八木寺東遺跡(9)、小八木志志貝戸遺跡(12)、融通寺遺跡、浜尻遺跡(43)、浜尻旭貝戸遺跡(45)などで中期～後期に帰属する竪穴建物が確認されている。また、生産域は熊野堂遺跡、小八木遺跡(16)、日高遺跡(25)、下小鳥町頭

遺跡 (36)、下小鳥町頭Ⅱ遺跡 (37) などではAs-Cにより被覆された水田跡が検出されている。

古墳時代

集落域は熊野堂遺跡、雨壺遺跡、大八木寺東遺跡、正観寺遺跡群、小八木遺跡、井野高縄遺跡2、江田村西遺跡 No.2 (32)、下小鳥遺跡 (38) など前期～後期に帰属する竪穴建物が検出されている。生産域は小八木村東遺跡、熊野堂遺跡、正観寺遺跡群、小八木遺跡、日高遺跡、下小鳥町頭遺跡、下小鳥町頭Ⅱ遺跡、融通寺遺跡、浜尻遺跡でHr-FAに伴う泥流やHr-FPに被覆された水田跡や畠跡が検出されている。

奈良・平安時代

本遺跡周辺では当該期にあたる調査事例が多く認められている。集落跡は熊野堂遺跡、大八木伊勢廻遺跡 (6)、大八木箱田池遺跡、大八木寺東遺跡、正観寺遺跡群、井野高縄遺跡 (21)、井野高縄遺跡2、西浦北遺跡、大八木屋敷遺跡 (35)、勝呂遺跡 (33)、下小鳥遺跡、融通寺遺跡、浜尻遺跡で確認されている。また大八木屋敷遺跡は「八木院」と称される官衙施設の可能性が指摘されており特筆されよう。生産跡は正観寺西原遺跡 (10)、正観寺遺跡群、小八木遺跡、小八木葦貝戸遺跡 (19)、日高遺跡、中尾村前遺跡 (26)、井野矢ノ上遺跡 (27)、井野屋敷前遺跡 (29)、井野屋敷添遺跡 (30)、井野・天水遺跡 (31)、大八木水田遺跡 (40)、大八木換地分遺跡 (42)、緑町四丁目遺跡 (44) などAs-Bに被覆された水田跡が検出されている。条里制に基づいた方格地割が広範囲で認められるが、本遺跡地周辺は起伏の多い地形であることから地形の



- | | | | | |
|--------------|---------------|--------------|-----------------|--------------|
| 1. 小八木村東遺跡・2 | 10. 正観寺西原遺跡 | 19. 小八木葦貝戸遺跡 | 28. 井野環濠遺構 | 37. 下小鳥町頭Ⅱ遺跡 |
| 2. 西浦北遺跡 | 11. 菅谷石塚遺跡 | 20. 小八木新井屋敷 | 29. 井野屋敷前遺跡 | 38. 下小鳥遺跡 |
| 3. 西浦南遺跡 | 12. 小八木志志貝戸遺跡 | 21. 井野高縄遺跡 | 30. 井野屋敷添遺跡 | 39. 融通寺遺跡 |
| 4. 熊野堂遺跡 | 13. 小八木井野川遺跡 | 22. 井野高縄遺跡2 | 31. 井野・天水遺跡 | 40. 大八木水田遺跡 |
| 5. 雨壺遺跡 | 14. 正観寺遺跡群○区 | 23. 中尾所之免遺跡 | 32. 江田村西遺跡 No.2 | 41. 浜尻八幡屋敷 |
| 6. 大八木伊勢廻遺跡 | 15. 正観寺遺跡群 | 24. 中尾城 | 33. 勝呂遺跡 | 42. 大八木換地分遺跡 |
| 7. 大八木箱田池遺跡 | 16. 小八木遺跡 | 25. 日高遺跡 | 34. 日高環濠遺構群 | 43. 浜尻遺跡 |
| 8. 諸口・諸口古墳 | 17. 小八木宅地添遺跡 | 26. 中尾村前遺跡 | 35. 大八木屋敷遺跡 | 44. 緑町四丁目遺跡 |
| 9. 大八木寺東遺跡 | 18. 黒崎屋敷 | 27. 井野矢ノ上遺跡 | 36. 下小鳥町頭遺跡 | 45. 浜尻旭貝戸遺跡 |

第3図 周辺の遺跡

制約を受けていると想定される箇所も認められる。なお熊野堂遺跡、西浦南遺跡、菅谷石塚遺跡（11）、正観寺遺跡群〇区（14）は東山道駅路と想定される道路遺構が検出されており、「国府ルート」と呼称されている。また第3図の範囲外となるが、新保八坂遺跡では南北方向に走行する道路跡が検出されている。推定国府の南側に位置していることから、東山道駅路と国府を結ぶ道路遺構と想定されており、これは「南北ルート」と呼称されている（関口 2003）。

中世

井野川流域には多くの中世の屋敷跡や城館址が確認されている。本遺跡地周辺でも小八木志志貝戸遺跡や小八木井野川遺跡（13）、小八木新井屋敷（20）、中尾所之免遺跡（23）、中尾城（24）、井野環濠遺構（28）、日高環濠遺構群（34）、浜尻八幡屋敷（41）が確認されている。また、融通寺遺跡では瓦塔・銅碗・板碑などの出土遺物から付近に中世の屋敷や寺院が存在していたと推測されている（井川 1991）。なお小八木志志貝戸遺跡では幹線道である「あづま道」が検出されており、As-B 降下後の復興作業との関連が想定されている（坂井他 2001）。

Ⅲ 調査の方法と経過

1 調査の方法

現地調査では、重機による表土掘削および下層の遺構確認を目的としたトレンチ（トレンチ A～E）の掘削を行った。その後人力による遺構検出および遺構掘削、そして畦畔の断面観察を目的とした断ち割り調査を行った。図面・写真による記録は各調査段階で適宜行った。遺構断面図は縮尺 1/20 を基本として基準点からの測り込みで行った。平面図についてはトータルステーションを用いた。写真撮影には 35mm 白黒ネガ・35mm カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ（1,200 万画素）を使用し、空撮はドローン（DJI Mavic2 Pro）を用いて撮影した。

整理調査は、第1次原図を作成した後、修正を行い第2次原図を作成した。出土遺物は洗浄・注記を行った。遺構図のトレース・編集は Adobe Illustrator CS2、報告書の編集は Adobe InDesign CS2 を使用した。

2 調査の経過

発掘調査は令和6年3月1日～3月19日、整理調査は令和6年3月20日～8月30日の期間で実施した。

【発掘調査】

- 3月1日：安全対策を実施。
- 3月4日：仮設トイレを設置。重機による表土掘削を開始し、終了。人力による遺構確認作業を開始。
- 3月5日：人力による遺構確認作業を継続。
- 3月6日：降雨のため、現場作業を中止。
- 3月7日：人力による遺構検出作業を継続。
- 3月8日：測量基準点の設置。人力による遺構確認作業を終了し、遺構検出作業を開始。
- 3月11日：遺構検出作業を終了。ドローンによる空撮を実施。高崎市教育委員会による終了確認の検査。
- 3月12日：降雨のため、現場作業を中止。
- 3月13～15日：調査区の北側を拡張。畦畔の断ち割りを実施。
- 3月19日：重機による埋め戻しを実施。

【整理調査】

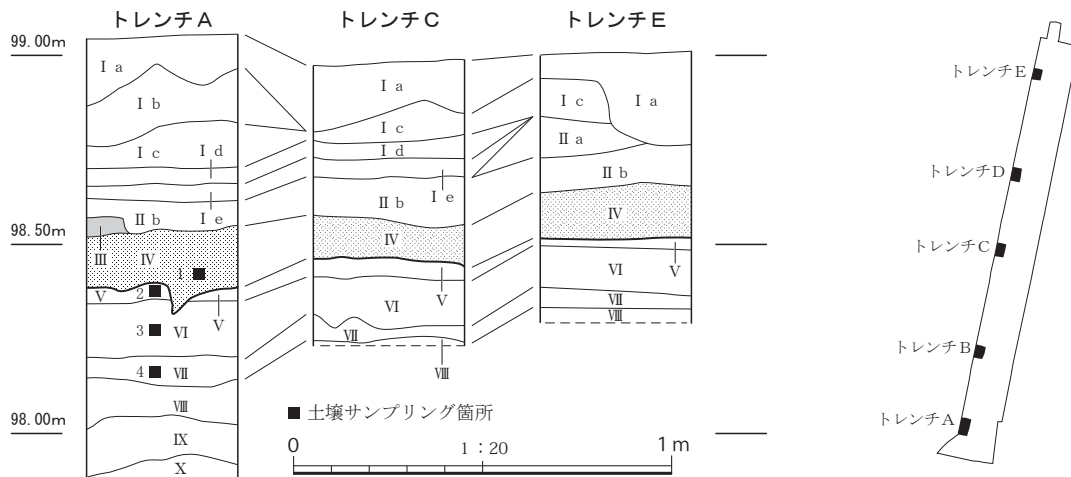
- 3 月期：遺物の洗浄・注記、平面図の第 1 次原図を作成。
- 4 月期：遺構図面の修正および第 2 次原図を作成。遺構原稿を執筆。
- 5 月期：遺構原稿の執筆を継続。
- 6 月期：報告書編集作業。
- 7 月期：報告書編集作業を継続。報告書原稿の入稿・校正。
- 8 月期：報告書の印刷・製本・刊行。

IV 基本層序 (第 4 図)

基本層序の観察は 5ヶ所に設けたトレンチの内の、調査区南側のトレンチ A の西壁、調査区中央部のトレンチ C の西壁、調査区北側のトレンチ E の西壁で実施した。なお今回の調査では自然科学分析を実施できなかったが、トレンチ A では土壌のサンプリングをおこなっているため第 4 図にその位置を示す。

I 層は As-A が混入する表土層である。そしてこの内の I c・I e 層は鉄分が多量に含まれることから、水田耕作に伴う土層と推測される。II 層は As-B 混土層である。III 層は As-B の噴出と共に浅間山から流出した追分火砕流である。IV 層は As-B の一次堆積層であり、最下部には火山灰の堆積が認められた。V 層は水田跡の床土であり、非常に粘性の強い黒褐色粘質土層である。VI 層は Hr-FA ないし Hr-FP が混入する粘質土層である。VII 層は As-C を含む粘質土層である。VIII・IX・X 層は鉄分を含む粘質土層であり、軽石が混入する。

なお本遺跡と隣接する小八木村東遺跡(権田 2014)では、Hr-FA 直下の畠跡や As-C の一次堆積層を含む埋土により被覆された溝跡が検出されている。そのためトレンチ(トレンチ A~E)による調査を行ったが、本遺跡では同様の遺構は確認されなかった。



土層説明

I a 灰褐色土 (7.5YR5/2)	しまり・粘性なし。As-A 多量。	II b 暗褐色土 (7.5YR3/3)	しまりややあり、粘性なし。As-B 少量。
I b 灰褐色土 (7.5YR5/2)	しまりあり、粘性なし。 鉄分少量含有。As-A 多量。	III 灰赤色土 (10YR5/2)	しまりあり、粘性なし。追分火砕流。
I c 灰褐色土 (7.5YR4/2)	しまりあり、粘性なし。 鉄分多量含有。As-A 多量。	IV 褐灰色土 (7.5YR5/1)	しまりややあり、粘性なし。As-B 一次堆積層。
I d 灰褐色土 (7.5YR5/2)	しまりややあり、粘性なし。As-A 多量。	V 黒褐色土 (7.5YR3/1)	しまり・粘性あり。白色粒微量。
I e 灰褐色土 (7.5YR4/2)	しまりあり、粘性なし。 鉄分多量含有。As-A 微量。	VI 褐灰色土 (7.5YR6/1)	しまり・粘性あり。Hr-FA 少量。
II a 灰褐色土 (7.5YR3/3)	しまり・粘性ややあり。As-B 微量。	VII 褐灰色土 (7.5YR4/1)	しまり・粘性あり。鉄分少量。As-C 多量。
		VIII 黒褐色土 (7.5YR3/1)	しまり・粘性あり。鉄分多量。白色粒多量。
		IX 褐灰色土 (7.5YR4/1)	しまり・粘性あり。鉄分多量。白色粒少量。
		X 褐灰色土 (7.5YR5/1)	しまり・粘性あり。鉄分多量。白色粒少量。

第 4 図 標準堆積土層断面

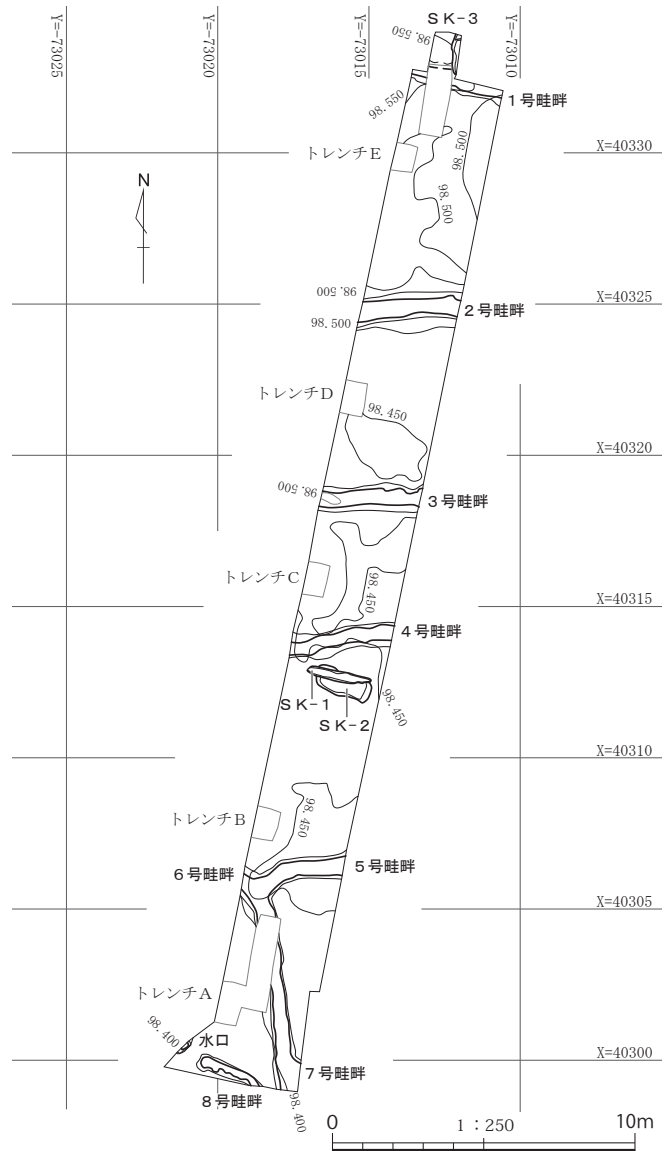
V 検出された遺構と遺物

1 概要 (第5図)

調査区全域でAs-B (1108年降下)の一次堆積層が堆積しており、その直下には8条の畦畔(1～8号畦畔)および水口が付随する平安時代末期の水田跡を1面検出した。As-Bの一次堆積層は層厚が約3cm～17cmであり、水田面および畦畔は良好な状態で保存されていた。本遺跡周辺では日高遺跡(横倉他1982)や大八木水田遺跡(田島他1979)などで条里地割と呼ばれる一町方角四方の坪を基本単位とする土地区画が施工されていたことが明らかになっている。条里地割は坪境の畦畔の位置から求められているが、今回の調査で検出された畦畔は所謂小畦であるため、条里地割の軸として活用するのは難しい。しかし周辺の調査事例から本遺跡においても条里地割が施工されていたと考えられる。

水田跡以外には土坑3基(SK-1～3)が検出された。埋土の観察からSK-1は近世以降、SK-2・3は中近世に帰属すると推測される。

出土遺物は水田面直上から土器片が2片、SK-3から土器片が2片、その他には遺構外から軟質陶器1片とかわらけ1片が出土しているが、いずれも小破片のみの出土であるため、図化していない。



第5図 全体図

2 水田跡 (第6～8図, 写真図版1～5)

位置: 調査区全体において検出されている。

重複: SK-1・2・3と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。

立地: 本調査区は北から南にかけて地形が緩傾斜している。水田面の標高は調査区の北端で98.573m、調査区の南端で98.358mを測り、その比高は21.5cmである。

区画: 検出された区画は8区画(区画1～8)である。調査区外に広がるため全貌を把握できた区画はなかったが、調査範囲内での計測値および状況について以下に記載した。なお区画の幅は区画の北側と南側の畦畔の下端幅、水田面比高は同一区画内の最大値と最低値の比高を示す。

区画1の水田面中央の標高は98.566m、水田面比高は2.5cmである。区画2との比高は少ない。

区画2の幅は6.28～7.49 m、水田面中央の標高は98.516 m、水田面比高7.3cmである。水田面の凹凸は比較的少ない。中央部には北から南東にかけて走行する帯状のわずかな高まりが認められる。

区画3の幅は5.36～5.55 m、水田面中央の標高は98.474 m、水田面比高は8.3cmである。水田面の凹凸が比較的多い。2号畦畔の周縁にはわずかな高まりが認められ、3号畦畔付近は窪地状に低くなっている。

区画4の幅は3.74～4.11 m、水田面中央の標高は98.425 m、水田面比高は6.1cmである。水田面の凹凸が比較的多い。他の区画に比べて区画幅が狭い。また区画中央の調査区東壁付近がわずかに低くなっている。

区画5の幅は6.89～7.37 m、水田面中央の標高は98.416 m、水田面比高は4.9cmである。水田面の凹凸は比較的多いが、北側の4号畦畔付近は凹凸が少ない。なお5号畦畔の周縁部はわずかに高くなっている。

区画6の幅は5.34～5.82 m、水田面中央の標高は98.433 m、水田面比高は4.8cmである。水田面の凹凸は比較的少ない。区画中央部から5号畦畔付近にかけてわずかに高くなっている。

区画7の幅は5.34～5.44 m、水田面中央の標高は98.358 m、水田面比高は5.5cmである。水田面の凹凸が比較的多い。区画5・6との比高が大きく、また南側の8号畦畔には水口が付設されている。

区画8の水田面中央の標高は98.374 m、水田面比高は5.3cmである。区画7との比高は少ない。

畦畔：検出された畦畔は8条である。調査範囲が狭いため全貌を把握できた畦畔はなかったが、調査範囲内での計測値および状況について以下に記載した。なお高さは畦畔とその南側の区画との比高を示す。

1号畦畔の上端幅は0.39～0.54 m、下端幅は0.79～0.91 m、高さは4～6 cm、走行方位はN-103°-Eである。水田面に比べて畦畔上面の凹凸は少なくならなかであり、概ね直線的に走行する。

2号畦畔の上端幅は0.44～0.68 m、下端幅は0.91～1.07 m、高さは1～4 cm、走行方位はN-87°-Eである。水田面に比べて畦畔上面の凹凸は少なくならなかであり、概ね直線的に走行する。

3号畦畔の上端幅は0.37～0.62 m、下端幅は0.74～0.94 m、高さは1～4 cm、走行方位はN-91°-Eである。水田面に比べて畦畔上面の凹凸は少なくならなかであり、概ね直線的に走行する。

4号畦畔の上端幅は0.37～0.49 m、下端幅は0.73～0.87 m、高さは3～7 cm、走行方位はN-81°-Eである。水田面に比べて畦畔上面の凹凸は少なくならなかであり、北側に曲折して走行する。

5号畦畔の上端幅は0.48～0.55 m、下端幅は0.69～0.96 m、高さは3～6 cm、走行方位はN-77°-Eである。水田面に比べて畦畔上面の凹凸は少なくならなかであり、北側に曲折して走行する。

6号畦畔の上端幅は0.50～0.63 m、下端幅は0.95～1.02 m、高さは5～8 cm、走行方位はN-121°-Eである。水田面に比べて畦畔上面の凹凸は少なくならなかである。区画5と区画7の境界であり、本畦畔を境に水田面の標高に大きく違いが見られる（第7図 H-H'）。

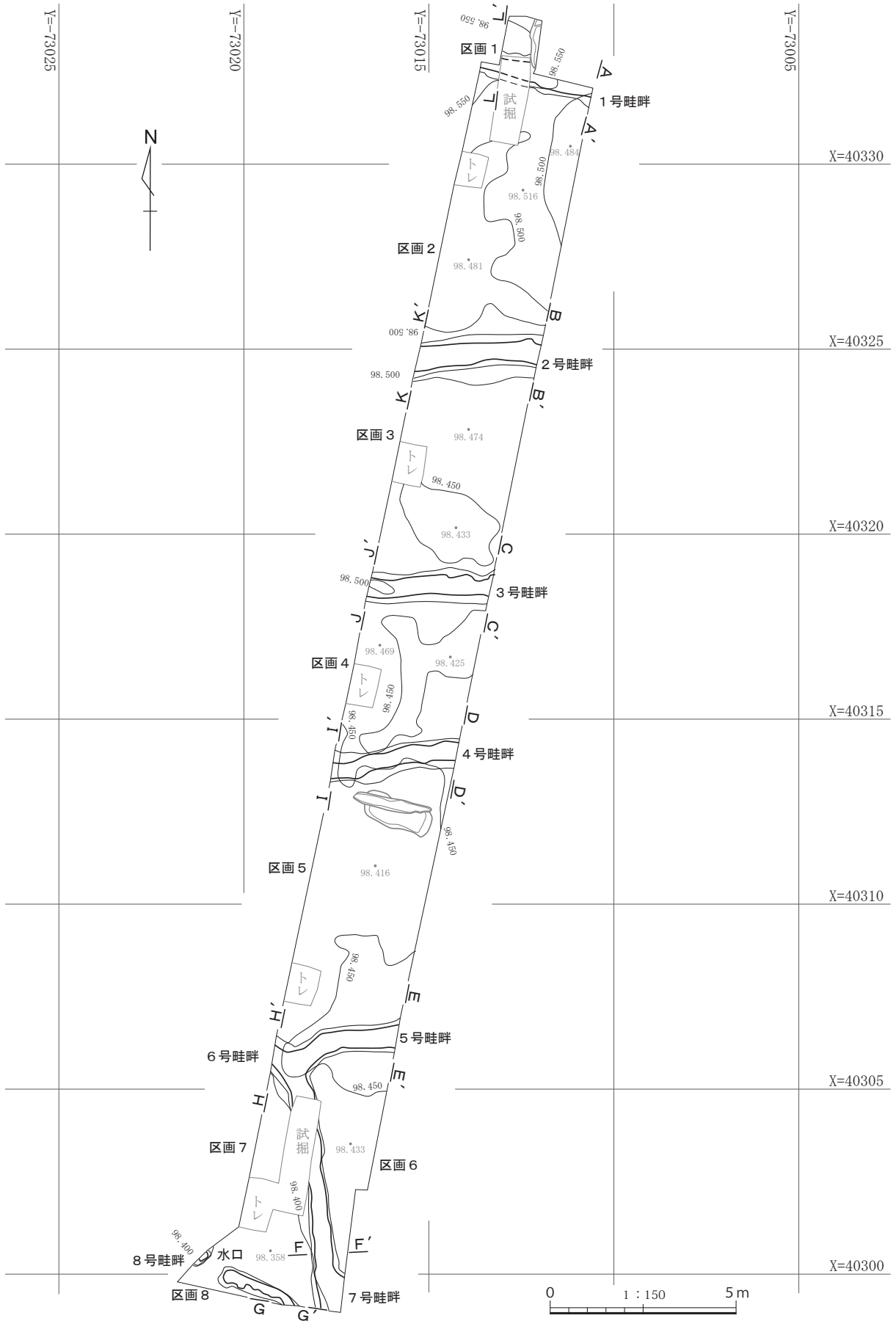
7号畦畔の上端幅は0.39～0.84 m、下端幅は0.49～1.09 m、高さは1～6 cm、走行方位はN-9°-Wである。水田面に比べて畦畔上面の凹凸は少なくならなかであり、概ね直線的に走行する。区画6と区画7の境界であり、本畦畔を境に水田面の標高に大きく違いが見られる（第7図 F-F'）。なお南端部に曲折している箇所が認められることから、調査区の東側に延びる畦畔の存在が想定される。

8号畦畔の上端幅は0.18～0.35 m、下端幅は0.33～0.57 m、高さは1～6 cm、走行方位はN-117°-Eである。概ね直線的に走行する。他の畦畔と比べると規模が小さく、凹凸も多い。

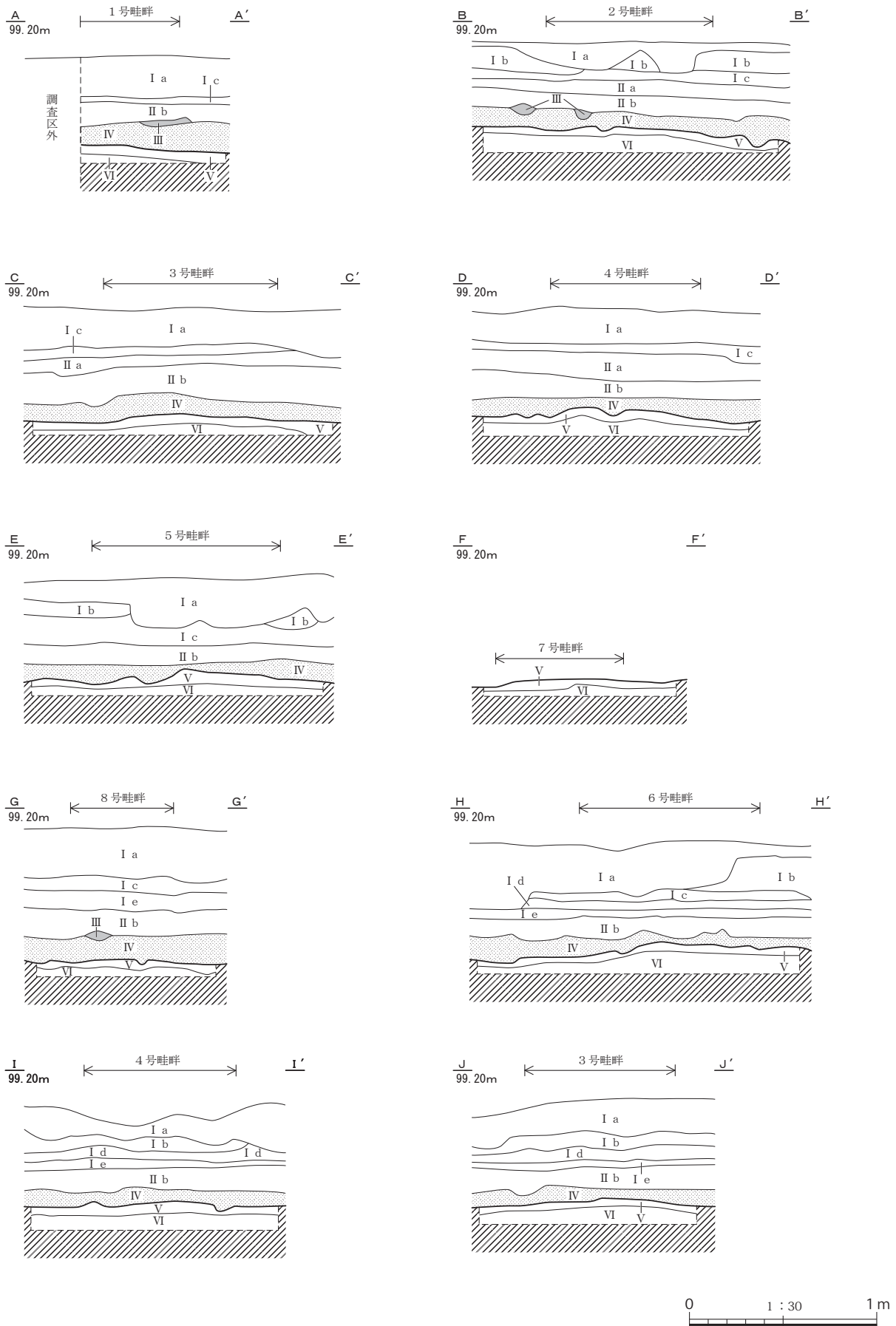
水口：調査区の南端部で検出された8号畦畔に付設されていた。幅は54.3cmであり、北から南に傾斜する。また水田面に比べて凹凸が少なく平坦である。

遺物：小破片のみの出土であるため図化していないが、区画2の水田面直上から土器片が2片出土した。

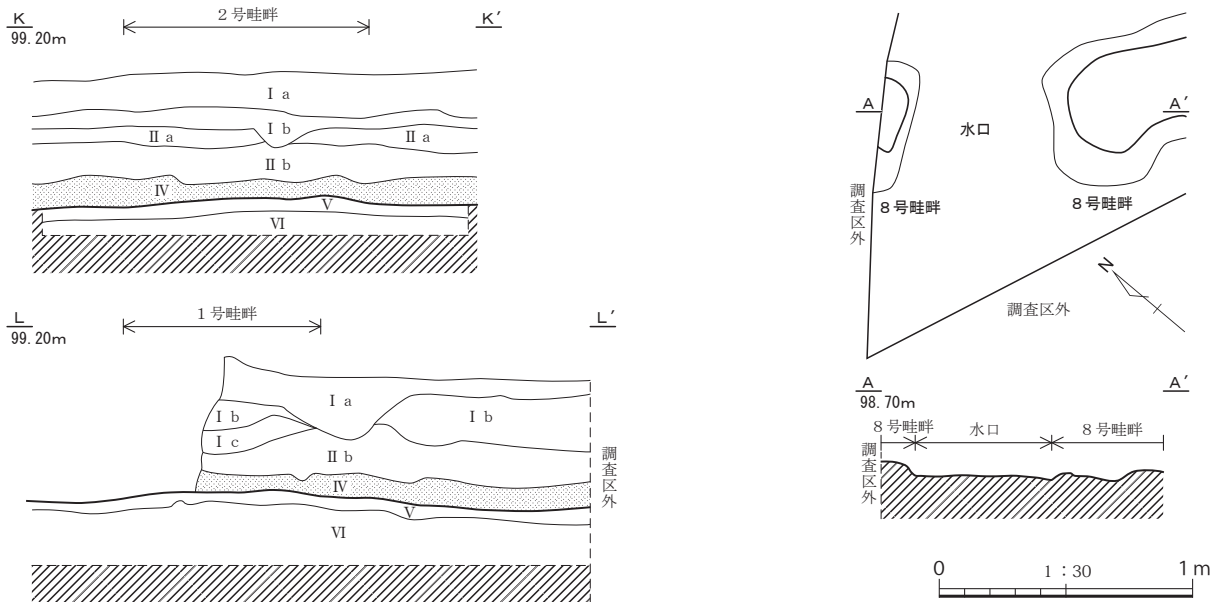
時期：As-Bの一次堆積層に被覆されていることから、平安時代末期に帰属する。



第6図 As-B層下水田跡(1)



第7図 As-B層下水田跡(2)



第8図 As-B層下水田跡(3)

3 土坑

SK-1 (第5・9図, 写真図版5)

位置: X = 40310 ~ 40315、Y = -73020 ~ -73015 グリッド。

重複: SK-2および水田跡と重複し、いずれよりも本遺構が新しい。

規模・主軸方位: 長軸 2.13 m。短軸 0.33 m。深さ 0.05 m。主軸方位 N - 100° - E。

形態: 平面形は不整形な溝状。断面形は逆台形状を呈する。

時期: 遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、埋土中に As-A を含むことから近世以降に比定される。

SK-2 (第5・9図, 写真図版5)

位置: X = 40310 ~ 40315、Y = -73020 ~ -73015 グリッド。

重複: SK-1および水田跡と重複し、切り合い関係から SK-1 より古く、水田跡よりも新しい。

規模・主軸方位: 長軸 1.92 m。短軸 0.69 m。深さ 0.32 m。主軸方位 N - 112° - E。

形態: 平面形は不整形、断面形は逆台形状を呈する。

覆土: As-B を多く含む土壌がレンズ状に堆積しており、また最下部には鉄分が凝集していた。

時期: 遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、埋土中に As-A を含まず As-B を多量に含むことから中近世に比定される。

SK-3 (第5・9図, 写真図版5)

位置: X = 40330 ~ 40335、Y = -73015 ~ -73010 グリッド。

重複: 水田跡と重複し、本遺構の方が新しい。

規模・主軸方位: 長軸 [1.27] m。短軸 [0.27] m。深さ 0.57 m。主軸方位 N - 15° - W。

形態: 大半が調査区外に広がるため詳細は不明であるが、南側の中位にはテラス状の段差が認められた。

遺物: 小破片のみの出土であるため図化していないが、土器片が2片出土した。

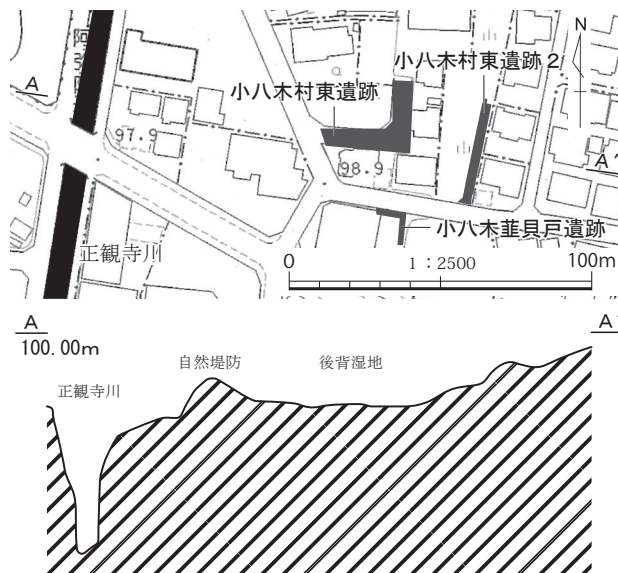
時期: 詳細な時期は不明であるが、埋土中に As-A を含まず As-B を微量に含むことから中近世に比定される。

は概ね東西方向を指向し、直線的に走行していることから条里地割に近いことが窺える。しかしその他の畦畔については北側や西側に傾きを持って走行するものや、曲折して走行するものが検出されており、条里に即していない様子がうかがえる。この要因としては6・7号畦畔が標高の高い区画5・6と標高の低い区画7の境界に構築されている（図7 H-H'・E-E'）ことからわかるように、地形に制約された水田区画が設定されたことに起因するものと推測される。本遺跡周辺においては小八木遺跡（飯塚他 1980）、小八木志志貝戸遺跡（坂井他 2001）、菅谷石塚遺跡、正観寺西原遺跡（倉石 2013）でも部分的に同様の状況を認めることができ、また本遺跡とそれらの遺跡は相馬ヶ原扇状地の末端に位置しているという共通点が認められる。相馬ヶ原扇状地の末端部では旧河川により形成された微高地や低地が多く認められるため、非常に起伏に富んだ地形となっている（第11図）。すなわち本遺跡を含む周辺の遺跡では、そのような複雑な地形に水田を造成する関係から条里を意識しつつも地形に沿った水田区画を設定する必要があったと考えられる。

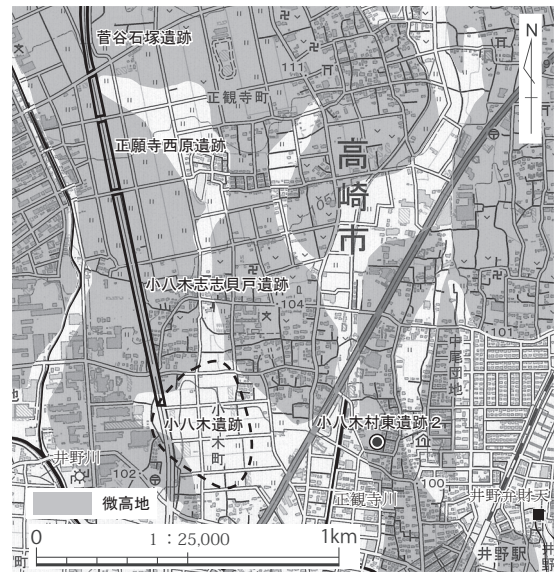
なお周辺の地形をより詳細に観察すると、本遺跡の西側には正観寺川が南流しており、その脇には正観寺川が形成したと想定される自然堤防が带状に認められる。さらにその東側には本遺跡が立地しており、周辺と比較してやや低い地形となっていることがわかる（第10図）。すなわち本遺跡は後背湿地に位置しているものと想定され、またこのように低地の範囲が狭い箇所においても水田が造成されていることから、積極的な水田開発が行われていたことが窺える。なおその背景には周辺の湧水池（井野弁財天）の存在からもわかるように、本遺跡地周辺は水田造成に適した土地であったことが一つの要因として考えられる（第11図）。

おわりに

今回の調査では本遺跡地周辺では積極的な水田開発が行われており、また地形の制約を受けつつも条里に即した水田区画が指向されていた可能性を指摘できた。今後の発掘調査の進展によって、周辺のAs-B降下以前の様相がさらに明らかになることが期待される。



第10図 微地形図（縦横比 20:1）
※国土地理院のツールを用いて作成。



第11図 地形図
※国土地理院の地形分類を元に作成。

参考文献

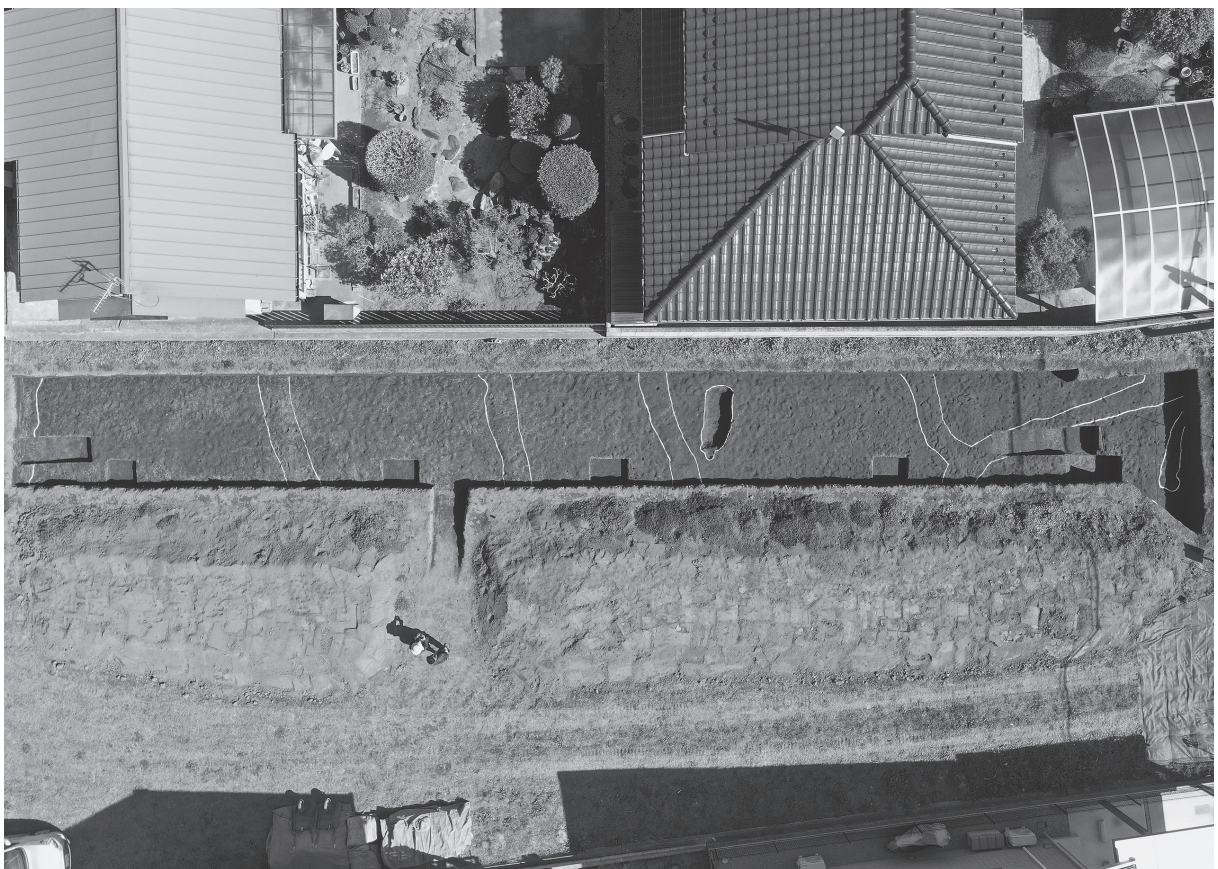
田島桂男他 1979『大八木水田遺跡』高崎市教育委員会
 早田勉他 1990『群馬県史 通史編 1』群馬県史編さん委員会
 横倉興一他 1982『日高遺跡 (IV)』高崎市教育委員会
 関口修他 2003『新編高崎市史通史編 1 原始・古代』高崎市史編さん委員会
 井川達雄他 1991『融通寺遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

飯塚恵子他 1980『小八木遺跡 (II)』高崎市教育委員会
 坂井隆他 2001『小八木志志貝戸遺跡 2』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 倉石広太 2013『正観寺西原遺跡』株式会社シン技術コンサル
 五十嵐信 1981『小八木志志貝戸遺跡』高崎市教育委員会
 権田友寿 2014『小八木村東遺跡』スナガ環境測設株式会社

写 真 图 版



調査区遠景（北から）



調査区全景（左下が北）

写真図版 2



調査区全景（北から）



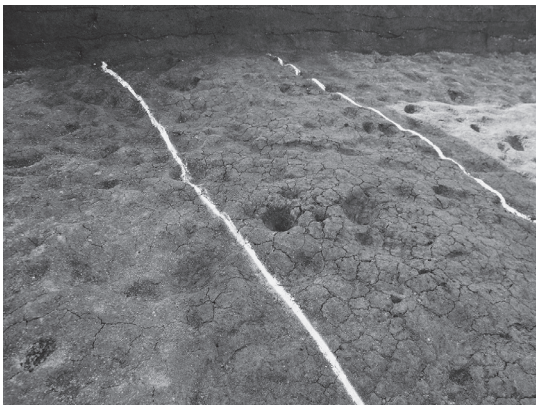
水田跡区画 3～5（北西から）



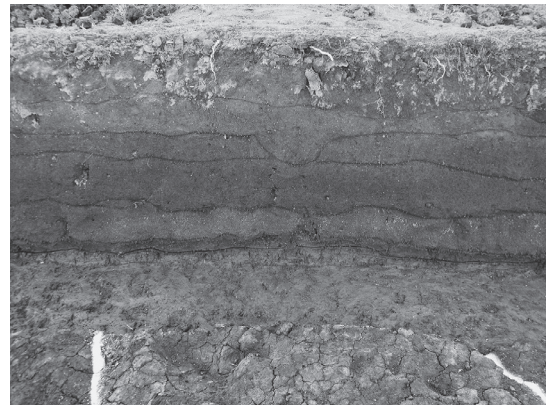
1号畦畔 (東から)



1号畦畔 土層断面 L-L' (東から)



2号畦畔 (南東から)



2号畦畔 土層断面 K-K' (東から)



3号畦畔 (南東から)



3号畦畔 土層断面 J-J' (東から)

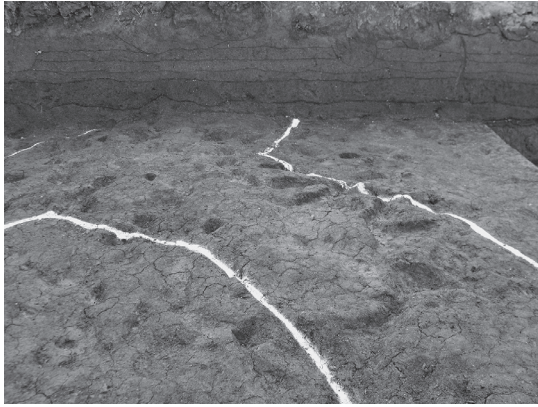


4号畦畔 (南東から)



4号畦畔 土層断面 I-I' (東から)

写真図版 4



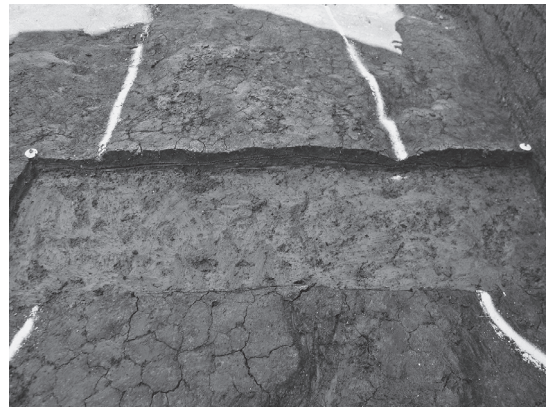
5・6号畦畔（東から）



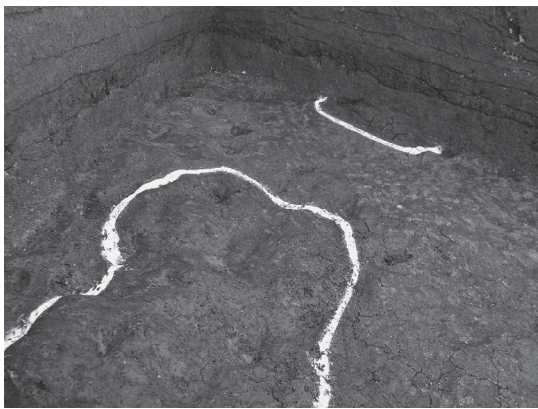
6号畦畔 土層断面 H-H'（東から）



7号畦畔（南から）



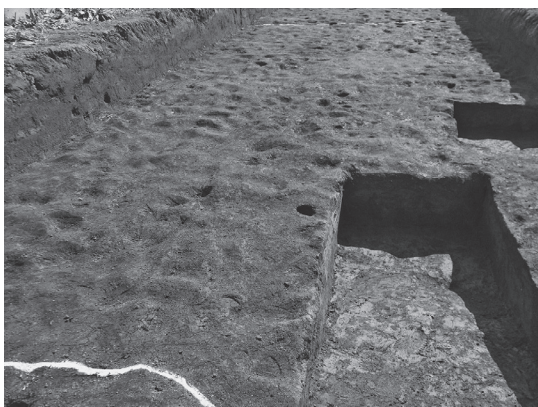
7号畦畔 土層断面 F-F'（南から）



8号畦畔・水口（東から）



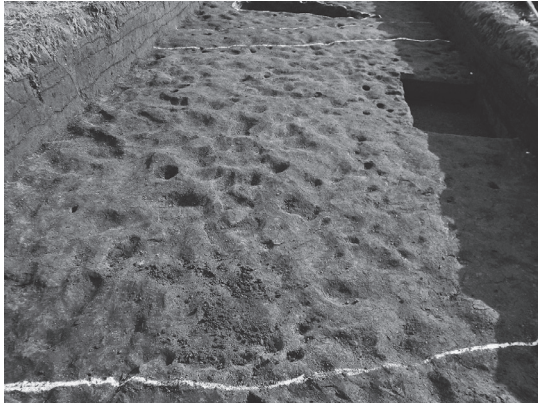
8号畦畔 土層断面 G-G'（北から）



区画 2（北から）



区画 3（北から）



区画 4 (北から)



区画 5 (北から)



区画 6 (北から)



区画 7 (北から)



SK-1 完掘 (南から)



SK-2 完掘 (南から)



SK-3 完掘 (西から)



基本層序 トレンチ A (東から)

報告書抄録

フリガナ	コヤギムラヒガシイセキ2
書名	小八木村東遺跡2
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第508集
編著者名	滝沢匡 松本喜臣 宮本久子
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 Tel. 027-265-1804
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行年月日	令和6年8月30日

所収遺跡名	所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
こやぎむらひがし 小八木村東 いせき 遺跡2	ぐんまけんたかさきし 群馬県高崎市 こやぎまちなか 小八木町字 むらひがし 村東1424番 1、1425番2、 1429番1	102020	887	36° 21' 38"	139° 01' 10"	20240301 ～ 20240319	150.84 m ²	宅地造成 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小八木村東遺跡2	水田跡	平安時代末期	水田跡1面	軟質陶器 かわらけ	浅間B軽石直下の水田跡を検出。
		中近世以降	土坑3基		

高崎市文化財調査報告書 第508集

小八木村東遺跡2

一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一

令和6年8月23日 印刷

令和6年8月30日 発行

編集 / 有限会社 毛野考古学研究所
発行 / 有限会社 毛野考古学研究所
印刷 / 朝日印刷工業株式会社